

# 中華人民共和国における大学発ベンチャーの視察報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学社会連携促進知財本部 公開日: 2014-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石井, 高広 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/16406">http://hdl.handle.net/10291/16406</a>

# 中華人民共和国における大学発ベンチャーの視察報告

社会連携促進知財本部では、10/27(水)～10/30(土)に、中国における産官学連携、大学発ベンチャーの実態調査のため、発展著しい中国の清華大学、北京大学の両大学を訪問しました。

石井 高広

知的資産センター事務室

## 清華大学

清華大学は、11学部48学科を擁する総合大学で、特に理工系では中国のトップである。81万平方キロという広大なキャンパスでは、約3万人の教職員・学生・院生が自転車でキャンパス間を往来している。

同大学では、大学の技術がスピンオフし、多くのベンチャー企業が創出されている。設立されたベンチャー企業の支援は清華大学の関連会社の「清華大学企業集団」が行っている。中国では、基礎研究を重視しながらも起業を志す教員が多く、すでに7社が同社の支援を受け、上場企業にまで成長している。分野は、IT関連、バイオ関連が中心である。

また、清華大学関連のサイエンスパーク「清華大学科技园発展中心」が同大学に隣接されている。ここには、企業と大学が共同で利用できる研究施設があり、国内外の多くの企業が集まっている。最先端の研究が人を呼び、そこに集まった人々が最先端の研究を行うという好循環が生まれている。

## 北京大学

訪問した北大孵化器は北京大学と北大科技园の合併会社である。ここでは、大学発ベンチャーの支援のほか、一般の創業支援も手掛けており、中小企業の育成に力を入れている。創業については、国からの補助金

を積極的に利用しており、まさに産官学が一体となった連携を行っている。インキュベーション施設への入居条件は①事業内容がハイテクであること、②事業内容に市場での競争優位性が見込まれること、③ビジネスプランが明確であることである。この条件で選考された「ビジネスの卵」から多数の企業が孵化し、すでにそのうちの3社のメガベンチャーが誕生している。清華大学同様、北京大学でも、大学、インキュベーション機関、サイエンスパークが一体となり活動している。

母体となる北京大学は、教員数約2000名、学生数約3万名を誇る中国最大級の大学であり、研究費の60%以上は学外からの資金を導入している。

## 感想

日本では、大学の技術は企業に移転されるケースが多いが、中国では、大学自らが起業するケースが多い。中国では、産官学連携から5000社以上のベンチャー企業が創出されている。これは①教員・学生のベンチャーマインドが高いこと、②起業するための大学の支援体制・インフラが充実していることが要因であると思われる。知的財産の創出、管理、活用まで、大学で一貫して行えるシステムが確立しており、産官学連携に関して、先進的な取り組みがされている。

清華大学にて



北京大学孵化器にて



左奥から清華大学・黄教授、清華大学・周国際合作部副處長



奥が北京大学孵化器・ベン副部長、右は通訳の陸氏

